

令和7年度 島根県教育センター長期研修員 研修報告 概要一覧

■島根県教育センター

研究主題：日本語指導が必要な子どもたちが自分らしく前向きに生きるための支援
～子どもが安心して思いを表現することにつながる関わりを通して～

長期研修員 中島 央恵（安来市立第一中学校）
（教育相談スタッフ相談セクション）

【 要 旨 】

本研修は、日本語指導が必要な子どもたちへの支援について、考えを整理することを目的としている。書籍や文献、各種研修会への参加、出雲市「日本語初期集中指導教室」支援員や島根県教育センター教育相談スタッフ教育相談員へのインタビュー、来所教育相談での実践等で学んだことから、受入・日本語指導体制づくりや、子どもが安心して思いを表現することにつながる関わり方について、考えを深めた。また、安心感を土台にし、子どもが人とのつながりを広げていきながら自分自身を見つめ、自分らしく前向きに生きようと、思いや願いを広げていくために必要な支援の在り方について、考えたことをまとめている。

【キーワード】

日本語指導が必要な子ども 関わり 安心感 思いを出す 言葉の壁を乗り越える

研究主題：聴覚障がいのある子どもたちがより安心して思いを表現しようとするために
～子どもたちの心に目を向けた関わり～

長期研修員 長束 真弓（松江ろう学校）
（教育相談スタッフ特別支援教育セクション）

【 要 旨 】

本研修は、聴覚障がいのある子どもたちがより安心して思いを表現しようとするためには、教師がどのように関わっていくとよいのかを探ること、自分自身のこれまでの関わりを見つめ直すことを目的としている。聴覚障がいのある子どもたちに関わる方々へのアンケートやインタビュー、来所教育相談、研修をとおした学びから、「不安や苛立ちなどの感情」「言葉の獲得」「思いを表現しようとする」「教師の関わり」の視点で整理をし、子どもたちの心に目を向けた関わりとはどのようなものであるのかをまとめている。

【キーワード】

聴覚障がい 言葉の獲得 教師の関わり 安心感 意欲

■島根県教育センター浜田教育センター

研修主題：中学英語における充実した「個別最適な学び」のための教師の支援の在り方
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

長期研修員 原田 貴久美（浜田市立第三中学校）
（研究・研修スタッフ）

【 要 旨 】

本研修は、中学英語における充実した個別最適な学びを目指し、一人ひとりの学びを支える教師の支援の在り方について、授業実践を通して探究したものである。自身の授業における「教師主導の進行」や「画一的な指導による学び」に課題意識をもち、個別最適な学びの実現を目指して、3年生と1年生で2度の授業実践を行った。授業実践1では、単元のゴールを明確化した上でICT活用や学習形態の選択を保障し、生徒が目的意識をもって自走できる環境を構築した。授業実践2では、UDL（学びのユニバーサルデザイン）の視点から教材の選択肢を提示し、個々の進度に応じて達成感を積み重ねられる仕組みを整えた。授業実践を通じ、個別最適な学びとは単に個別の状況に応じて指導を調整することに留まらず、生徒が自身の強みを起点に学びを模索し、選び取りながら成長していく過程を支えるものであると再認識した。教師には、生徒が安心して学びを選択できる環境を整え、伴走者としてその学習過程に寄り添う姿勢が求められる。今後は、個別の学びの充実が協働的な学びを深め、また協働での気づきが個別の学びをさらに豊かにするという、両者の相補的な関係性の構築を継続的な課題としたい。

【キーワード】

個別最適な学び 中学英語 教師の支援の在り方 選択肢の保障

研究主題：援助ニーズの高い児童生徒のアセスメントをセルフアドボカシーにつなげる
効果的なフィードバック

～児童生徒のよいところを共有してよりよい支援や自己理解につなげるために～

長期研修員 和田 成弘（島根県立出雲養護学校）
（教育相談スタッフ）

【 要 旨 】

本研修は援助ニーズの高い児童生徒に対して、児童生徒の自己理解やセルフアドボカシー（自己権利擁護力）を育む環境づくりを行うための研修報告である。環境づくりの方法として、アセスメントとフィードバックの質を高めることについて考察した。アセスメントに関しては、心理検査等のフォーマルアセスメントと日常的な観察によるインフォーマルアセスメントの両面から、子どもの強みを肯定的に捉えることの重要性を整理した。また、アンケート調査の結果、学校現場で心理検査結果の活用ニーズは高いものの、専門用語の難解さや具体的な支援への結びつけ方に課題があることが分かった。これを

受け、専門知識を平易に解説したり、行動観察や実態表記入の際の指標としたりできる「アセスメントお助けシート」を作成した。また、子どもに自分自身のよさを分かりやすく伝える「本人向けフィードバック様式」の開発と実践を行った。周囲の大人がアセスメントを基盤とした肯定的な評価を共有し子ども本人にフィードバックすることで、子どもが自己理解を深めた上で必要な支援を求め、自分らしく社会参加できる環境を築くことを目指して本研修をまとめた。

【キーワード】

特別支援教育 アセスメント フィードバック セルフアドボカシー 心理検査